

校長ニューズレター(第23号・1月号) 宜野湾市立長田小学校校長:横山芳春



総合表現で育てていくこと(連載2)

総合表現で子どもたちのなにを育てていくのか、今回はそのことを紹介しましょう。

①自信を育てていきます

マイクなしで朗読・歌を歌う。体で表現する。すべておおきな勇気が必要です。大人だって、聴衆の前で話しをするには勇気がいります。(カラオケ店以外で)人前で歌を歌える大人が何人いるでしょうか。ましては、人前で体を使った表現ができるでしょうか。

子どもたちは、マイクなしで朗読し、歌を歌います。勇気がないと大きな声は出せません。心が開かれていないと、よく響く声は出ないのです。

長田小学校では、表現活動をとおして、子どもたちの勇気を育て、自信を育てています。

子どもがどのように育っているのか、こどもの感想をみてみましょう。

「この時間で新しく目標ができました。声を出すということです。私は、まだ自信がなくて、人が言ってからあとに声を出しているの、みんながとまるとその所を覚えていても止まってしまいます。なのでこれからは、たくさん練習して、自信をもって一番始めに声を出すということができるよう、がんばって利根川を覚えていきたいです。こんど練習するときには自信をもって朗読できるようにしたいです。」(Aさん)

「今までの私は、朗読の部分、自信をもたないで発言していました。覚えていないから、それとも、やる気がないのか、自分でも、分かりませんでした。そして、今日の総合表現の時に、私は、自分自身の目標をたてました。それは、『まちがえてもいいから、おおきな声で、どうどうと』です。すると、スラスラと言えて、何だかおもしろい声を出すと気持ちいいなという気分になりました。」(Rさん)

上記の二人は、総合表現の取り組みをとおして、徐々に自信を作り出している様がよく伝わってくる。

昨年度の取り組みでの感想に次のものがあつた。

「最初は、恥ずかしい思いでいっぱいでした。けれど、かたくりの花をやっているうちに恥ずかしい事も無くなっていったかたくりの花の時間は、歌ってちゃんと詩を読めます。一人だけじゃなくてみんなで楽しくかたくりの花の時間を過ごせているのでとてもうれしいです。そして、自分自身とても自信がついたので良かったです。これからも、かたくりの花やっていきたいと思つています。」(Mさん)

このように総合表現で子どもたちに自信をつけさせていきます。自信は、とても大切な「生きる力」のおおきな要素です。

②協力し合う心を育てていきます

総合表現は、子どもたちが協力し合つて

創りあげていきます。友達が、一人であるいはグループで朗読したり歌っているときに、他の人たちは知らんぷりしたりおしゃべりしては、いいものはできません。反対に、心のなかで「がんばれ！」と応援したり、その朗読や歌をよくきき感じて、自分の朗読や歌に活かしていくことが、よい作品をつくりあげることになるのです。子どもたちの感想をひろってみましょう。

「——みんなで歌うとき、高音、低音、さらにその中間でやったことです。最初は、みんなばらばらでした。なれていくうちに、あってきました。あったときは、ぼくは、やっぱりすごいなと思いました。この歌い方を教えてくれたのは、狩野先生でした。次の総合表現では、楽しいことを学び、次にいかしたいです。」(Dさん)

この子どもは、みんなが協力し合って三部合唱をつくりあげていった様子に感動している。協力しあう事の大切さを、学び始めている。貴重な体験だ。

「『手をつないで歌ってみよう』と言ったのでみんなで手をつないで歌ってみると、いつのまにか僕は、ゆれていました。今回の授業で僕が学んだことは、どんな歌でも固くまじめに歌うのではなく、リズムに合わせて楽しく歌うということ、場にいるみんなと共感し楽しみながら歌うことです。これからも今回学んだことを生かしていきたいです。」(Yさん)

「今回の総合表現の利根川では、『楽しく歌うこと』です。友達と手をつないで楽しく歌っていると、体が自然に動き、おもしろく歌うことができました。友達と手をつなぐうちに歌をうたうときも、少し体がゆれて、楽しく歌うということができるようになった気分がしました。」(Kさん)

「場にいるみんなと共感し楽しみながら

歌うこと』、「友達と手をつないで楽しく歌っていると、体が自然に動き、おもしろく歌うことができました」と、子どもたちは友達と協力すると、楽しくなるしいい作品が創れるようになることを理解し始めている。

「六月ごろから総合表現を始めていました。——多くの人や先生たちのささえがあって、総合表現をやってこれた事や、みんなと協力すると、こんなに楽しいんだなあと思いました。」(Kさん)

「総合表現は、自分だけが目立ってはいけない。みんながキラキラ光る主役なのだと思います。一人だけがとても良いセリフやかっこいいセリフを言っても、まわりの人がしゃべったり、ふざけたりしていたら、その人をだめにしてしまう・・・だから、総合表現は、一人一人が主役で、一人一人ががんばらないといけないなと思いました。それに、総合表現のよいところは、他にもあります。それはいっさい道具を使わないことです。劇では、道具を使ってやるけど、総合表現はわたし達一人一人がすべて自分達の体でそれを表現するので、そこが総合表現のよいところだと思います。」(Uさん)

上記の感想は、私の前任校で総合表現に取り組んできた子どものもので、協力し合う大切さをよく学び取っている感想なので、あえてここに紹介しました。

つぎは、本校の先生の感想です。

「オペレッタ（総合表現）とは、自我を確立する。自分の中にある良さを引き出す。自分の頭で考えて動く。一人一人が主役になれる。自信が持てれば、やる気がでる、やる気ができれば学力があがります。足の裏をしっかりとつけて、大地のパワーをもらって生きましょう。」(M先生)

もちろん先生も子どもの何を育てるのか

を意識して取り組んでいます。

③自立心を育てていきます

自立とは、「だれからも助けられたり支配されたりしないで、自分の頭で考え行動する」ことです。

「わたしはふだん目立つ事はしないけど、今回勇気をもって語り手をやってみました。自分から進んでやるのは初めてで、自分にこんな勇気があるんだなと自分で思いました。いつもは、後ろの方でかくれていたり、友達の近くにいたりしていたけど、今回は、どうどうと前から見える所にいました。これが『自立』なんだなと実感しました。

『自立』ができてとても良かったです。最初は、はなれて歌ったりする時、自分だけが歌っているみたいで、とてもはずかしくて、小さな声でしか歌えませんでした。でも、『みんなやっている』と思えば、だんだん大きな声を出す事ができる様になりました。だんだんみんなも大きな声を出していました。学芸会当日は、みんな全力を出して、いいオペレッタができて良かったです。みんなも自立できたと思います。」(Nさん)

これも前任校の児童の感想。五年生の子どもが自立のことを言っている。子どもの可能性を軽んじてはいけないという証拠です。

「自信が持てるような子を育てること。感性豊かな子に育てること。教師の人間性が、授業に影響する為、自分の感性を磨いておくこと。先生は、明るい服装、明るい笑顔でいる方が子どもも気持ちが良いということ。号令がなくても間隔がとれる子を育てること。子どもの社会性を育てること。他者の存在に気づかせ、互いの存在を喜び合う関係を築くことができるように仕組むこ

と。」(A先生)

上記は、総合表現に取り組む本校教師の意気込みです。

④集中力を育てます

「——もう一つ自分が学んだことは、前の総合表現から集中力はずっとあったけど、この授業でもっと集中力がついてくるようになって、他の授業でもこの総合表現の集中力が使えるようになってよかったです。これからも総合表現をやっていきたいです。」(Tさん)

この子どもは、総合表現の授業をとおして集中力が養われ、この集中する力はほかの授業でも有効になっていると発言している。このような集中力は、学力向上に結びつきます。

はじめはすぐに頭をかいたり、足をさすったりして、上の空になったりしていた子どもたちが、徐々に集中力を高め、最後には、15分から20分の演技時間をずっと集中して表現できるようになってきます。

子どもの感想に、「(演技が) あっという間に終わりました。」という表現がよくできてきます。これは、子どもたちがいかに集中しているかが伺える感想です。

「集中」は、子どもたちに「集中せよ!」といっても集中できません。緊張するだけです。緊張と集中は違います。本校では、一年間をとおして総合表現に取り組むことで、子どもたちの集中力を育てています。

今回は、こどもたちの何を育てているかについて説明しました。

次回は、総合表現の「見方」、鑑賞のポイントです。